

保険証一枚ではり・きゅう・マッサージを受けたい

# 医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木2-39-7メゾン代々木201号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メール [iryokangaeru@waltz.ocn.ne.jp](mailto:iryokangaeru@waltz.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://npo-iryoo.org/>



## 新型コロナウイルスが企業活動に与えた影響

山西 俊夫

本年2月、中国の新節の時期に中国から大量の観光客が訪日したのを契機に、新型コロナウイルスの感染がじわじわと日本各地に広まり、経済活動にも影響を及ぼし始めました。(台湾では、12月の時点で武漢での新型コロナウイルス発生情報を感知して中国からの観光客の入国をいち早く禁止する措置を取ったといえます。)

中国工場からの部品調達が滞り国内外企業の生産に大きな影響を与えた結果、私どものような中小零細企業にも受注減のしわ寄せが襲いました。弊社は生産拠点を中国から台湾に移管していたことが功を奏して、幸い製品の供給ルートに支障をきたしませんでした。もし中国生産を継続していたら生産に大混乱を来たしていたと思うとカントリーリスクは企業経営には死活の問題です。

海外市場が冷え始めて、米国、ヨーロッパ、韓国、東南アジアからの受注がストップしました。ただ2007-2010年に起きたリーマンショック(金融ショック)に比較すると我々電機メーカーへの影響度はまだ少ないように思えます。当時受注がいきなり半減するほどのショックを産業界に及ぼしたことを考えると、今回のコロナショックは弊社にとっては売上が2割減程度で済んでいる状況です。当時は国の政策により銀行を通じた金融支援が功を奏して中小企業を生き返らせることができました。一方、現在の状況下では不要不急の仕入れを思い切って減らす、先に延ばすという手段を取ることで何とか凌いでいます。

ただ現状ではコロナウイルスを根絶することは不可能のようです。今後新種のコロナウイルスが発生する恐れがあることを考えると、我々は彼らとの共存を覚悟しなければならないと思われます。企業活動も今後はより慎重な取り扱いが求められます。

今年に入って書店の店頭で故安保徹先生の著書が積まれているのが目にとまりました。「病気になる体をつくる免疫力」というタイトルの文庫本です。「病気になる体をつくるためには、ストレスと低体温を防ぐ生き方をすればいい、そのことが免疫体質を形成すると書かれており、私のような素人にもすこぶる理解しやすい内容でした。

どうやら自身の免疫力を高めることでコロナウイルスに対処することが正解と思われる。今年のお盆休みはひたすら休養を取ることに専念しました。

## 急いで対処が望まれる検査体制拡充

コロナウイルスは、8月、連日35度を超える猛暑の中でも感染の勢いは衰えることなく、全国での感染拡大が続いています。感染は中高世代にも広がり、医療関係者の負担は日増しに大きくなっています。

感染拡大のなかで、政府の観光事業支援 Go To トラベルキャンペーンが実施されてからの沖縄県の感染は深刻です。

沖縄県は8月15日、新たに49人の感染者を確認し、県内の累計感染者は1559人となりました。県内の直近1週間（7～13日）の新規感染者数は人口10万人あたり42・55人で、14日連続で全国最多です。病院や高齢者施設でのクラスター発生が相次ぎ、高齢者や重症化リスクのある人に感染が広がりつつあり、医療崩壊の危険も考えられる状況です。

### 医療専門家の警告、提案

事態の重大な局面である事を察知し、感染対策についての医療関係者の発言が注目を集めています。7月30日には、尾崎治夫東京都医師会会長が「新型コロナ感染症への今後の対応」について記者会見を行い、感染防止対策検討のために「今すぐに国会を召集して、法改正を検討していただきたい」と訴えています。

会見の資料によれば以下のような具体的対策が示されており、直ちに検討が望まれます。

- 法的強制力を持った補償を伴う休業要請を限定地域で期間を定めて行う。
- その地域で集中的にPCR検査等を施行し、無症状者も含めて感染者の発見・対策を行う。
- 民間検査機関だけではなく、大学や研究機関などにも協力要請をして、短期間に多くの検査を展開するPCR検査の拡大。

また、東大先端科学技術センターの児玉龍彦名誉教授は、参院予算委員会に参考人として出席して、感染対策の緊急性を訴えました。

児玉教授は、新宿区に新型コロナウイルスのエピセンター（感染集積地）が形成されつつあると指摘し、感染拡大防止に「国の総力を挙げないとニューヨークの二の舞になる」と述べ、大規模なPCR検査の実施などを通じて制圧することが急務だとの認識を示しました。

さらに、7月21日に衆議院議員会館で行われた「ヨナオシフォーラム2020」の第1回集会の講師として講演し、再び感染問題の緊急性につき訴えています。

児玉教授は、手を打たない間にコロナ禍の状況は「輸入感染症から東京エピセンター（震源地）に変わった。日本はこれまでは感染者が少なかったが、いわば『湿った薪』が燃えなかったようなもの「山火事になると手に負えない」と述べ「新宿、ミナミ（大阪）、中洲（福岡）などがエピセンターという山火事になりつつある」と警告し、「エピセンターの制圧には20万人以上のPCR検査が必要である」と述べています。

### 不明確な政府の対応

問題は感染防止の対応がまったく不明確な政府の対応です。医療関係者の発言が相次いでいるにもかかわらず、感染防止や医療体制の強化についての政府の対応について見解が聞こえてきません。

経済活動の優先的対応からでしょうか、第二波ともいえる感染拡大のなかで感染防止対策が明らかにされないのですから国民の不安は大きくなります。

このなかで注目されるのが、世田谷区の取り組みです。

児玉龍彦・東京大学先端科学技術研究センター名誉教授が提案した「PCR 検査」の実施規模拡大と、「社会的検査」を導入して積極的監視をはかる。そして、街頭で「いつでも、だれでも、何度でも」の大量検査を実現しているニューヨークを目指していくという内容です。

保坂区長は、「区として最優先で取り組むべきことは、感染者が増えるほど疲弊し、コロナ患者を受け入れるほど赤字に陥る医療機関の支援だと考えていましたから、児玉名誉教授のアドバイスを踏まえ、高齢者施設や病院のスタッフ全員に抗体検査をする社会的検査の研究プロジェクトを立ち上げ、都の公益財団法人医学総合研究所などの協力を受けながら庁内論議を重ね、準備を進めてきた」というのです。

国や都のしっかりした支援が必要な問題であり、いろいろ困難も生じるでしょうが、勇気ある取り組みであり期待がもたれます。（久下 勝通）



## 手術後の回復に欠かせない治療

鍼、灸、あん摩マッサージ指圧師 高橋養藏

昨年、近所の人に紹介されたと言って、奥さんの付き添いで、70代男性、腰痛の患者さんが見えました。

聞くと5年前に外科手術したが、痛みが強くて背中を下にして仰向けになることが出来ない、短時間でも仰向けで寝られるようにして欲しいと訴えて来院しました。

経過を聞くと、長い間トラックの運転をして腰を痛めたと話していました。手術後のレントゲン写真を見せてもらったら腰椎5個全部を右側から、ネジで止めてありました。一見して治療しても回復は、なかなか大変だと感じました。

付き添ってきた奥さんから、治療してかえって悪くならないように、指圧はしないようにしてくださいと言われました。

始めは鍼灸治療を中心に行い、骨盤矯正を併用して2週間に1回の治療を半年間行い、その後、本人の希望で指圧と骨盤矯正の治療を月に1回続けています。治療を始めた時は、仰向けになれず、短時間しか出来なかった状態から、仰向けで、45分間も寝られるようになり歩行もだいぶ楽になって、散歩中に立ち話もできるようになったと喜んでます。まだ両下肢に痺れと痛みがあり治療は、継続しています。



## 新型コロナウイルスにふりまわされないくらしを ～免疫力を高めながら～

鍼灸・マッサージ師 田中榮子

私は、看護職の時病気をし、東洋医療を受け乗り越えてきました。そして食養（食事療法）を学び実践してきました。鍼灸・マッサージ師の仕事に応用させていただいております。

人類は歴史上数多くの感染症に出会ってきました。今回の新型コロナウイルスは、ひどく恐ろしいものではありませんが、手ごわい相手です。このウイルス感染者が各地に広がっている中、現政権は「GOTO トラベル」を一ヶ月早めて、「どんどん遊びに行ってください」と勧めています。経済も良くしたいという気持ちはわかりますが、人の命のことをどう考えているのでしょうか。

専門家のお話では、「このウイルスとのつき合いは長期にわたる」とのことです。このウイルスは、人間社会にはじめて現われ未知なことが多いのですが、私たちのふだんの心構えなどをおさらいしておきましょう。

### ① このウイルスの特徴（専門家のお話を元にまとめました。）

この病気は感染症ですから人から人へうつります。感染しても8割の人は軽症とのこと。…特に若い人は。また、持病を持っている人や高齢者がかかると、重症化率が高く死亡することもあります。私たちは3密を避けできるだけ人との接触を少なくすることで感染を防ぎます。

- ・主な症状…倦怠感、発熱、咳、呼吸困難、味覚異常、下痢など。
- ・守ること…手洗い、うがい、マスク着用、外出を控える。

### ② 一般的健康法の実行で体調を良くし、抵抗力を高めておく。

規則正しい生活。食事は旬のものを腹八分目。過労を避け適度な運動、十分な睡眠、生きがいを持つ。

★食事療法…その人の免疫力を高めるのに大切なこと。

○身土不二の原則を守る。

- ・自分の住む環境の周辺でとれたものを主に用いる。
- ・気候、風土によって適した食物は異なる。日本はアジアの温暖な地帯。

○その人の体質に合わせてとること。

- ・虚弱な人、冷え性の人からはからだを温め引き締めるもの（陽性なもの）をとるように心がけるなど。

○腸の働きをよくする。

- ・免疫力を高めるのに腸の役割は大事。砂糖は陰が強いので、からだを冷やし組織をゆるめる。腸の粘膜に影響。
- ・腸や内臓の働きを良くするのに自律神経を整えておくことも大事。
- ・良い血液を作る。アルカリ食品、味噌の利用を。

○動物性食品は野菜、海藻類とバランスよくとる。



### ③ 回復力、免疫力を高める方法

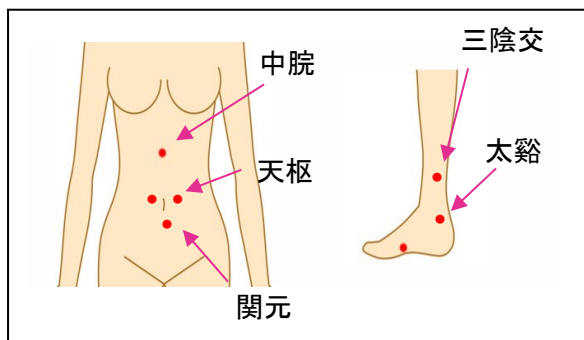
○東洋医療、鍼灸マッサージの活用

人間のからだは体調がおかしくなると、からだの表面のツボや経絡けいらくに一定の反応が出ます。

その部位を正確にキャッチして鍼灸マッサージ施術を的確に行いますと、全体の循環を良くしたり、バランスを整えその人の治癒力を高めます。ウイルス等に負けない質の良い白血球、リンパ球等を作れるようなからだにもっていく。

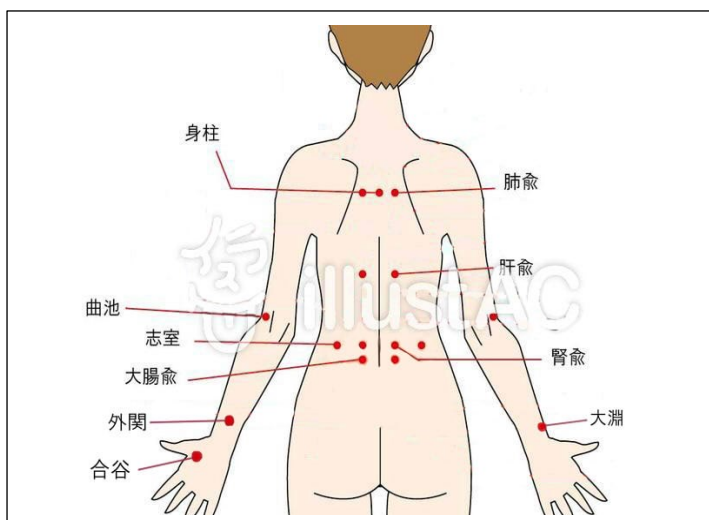
○よく用いられるツボ…ここへ適宜、鍼灸マッサージ等を行う。

(下記のツボ以外でも反応が出ているところも使うとよいでしょう。)



・腹部…かんげん関元、てんすう天枢、ちゅうつかん中腕

・足…たいけい太谿、たいしゅう太衝、さんいんこう三陰交、あしさんり足三里



・背部…はいゆ肺俞、しんちゅう身柱 (コロナウイルスでは肺がやられる。呼吸器系の症状に用いる)

・腰部…だいちょうゆ大腸俞、じんゆ腎俞

・手…ごうこく合谷、きよくち曲池、たいえん太淵、ないかん内関

### まとめ

現在国の「GOTO キャンペーン」により、全国各地で感染者が増加しています。このまま黙っていたら「医療崩壊」が進むかもしれません。国が国民を守ってくれない時は、私たち国の主権者は感染しないように基本的注意を守りながら、冷静に真実を学び、よく考え、必要な意見表明や行動を出来るところからやっていくことが大事ではないでしょうか。そして、自然界との調和を考えながら、多くの国民が「コロナ」にふりまわされないで、楽しく充実した日々を過ごせるようにもっていきたいと思います。

# 新型コロナ：病気とワクチン

2020年9月13日(日)13:00～16:30

2年前のNPO法人医療を考える会定期総会に「子どもと親のためのワクチン読本」

～“知っておきたい予防接種”～(現・国立保健医療科学院で疫学部感染症室長の母里啓子医学博士著)の本についてコンシューマネットジャパンの古賀真子さんに講演をしていただき、たいへん感銘を受けました。

今回、上記のお知らせをいただきましたので紹介させていただきます。

感染症の基本、免疫学の知識もふまえて、今回のコロナについて専門家の先生方のお話にご参加されるようご案内いたします。(別紙参照)



## 体験マッサージのご案内

日時 9月17日(木) 1時15分～

会場 千駄ヶ谷社教館 3F 和室

コロナウイルスがどうなるか不安を感じながらも、日々三密を守り暮らす皆様に、鍼灸マッサージで心もからだも緊張をなくし、リラックスする時間を持って免疫力を高めてください。

8月は熱中症の心配もあり、夏休みとさせていただきましたが、改めて予約して参加されますようお願い致します。

人数によって施術していただく先生にお願いする上でも早めに連絡をお待ちしています。

担当 山口充子 (090-1435-3715)